

不思議なマント

ないとう生

これは或る國の或る街に起つた話であります。

或る日朝からひどく雪が降つて往來も屋根も眞白になりました。するとその街へ何所から來たのか一人の乞食が現はれました。たつた一枚汚衣着物を着たつきりで、ブル／＼とふるへて街の中をウロウロとして居ります。所へ山高帽を冠つて鬚を生した立派な紳士が温さうな外套にくるまつてやつて來ました。乞食は紳士に御辭儀をしながら、『もし／＼旦那様。私は寒くつて堪りません。何卒旦那様の外套を下さいまし』と頼みました。紳士は眉をひそめて『馬鹿奴。貴様にやるやうな外套では無い。あつちへ行け汚い』と叱りつけて行つてしまひました。その次には立派な姿をした奥様が參りました。乞食はもし／＼奥様。私はこゝ

えさうです。何卒奥様のコートを下さいまし』と云ひますと奥様は『何だね。失禮な』と云つたきりづん／＼行つてしまひました。それから來る人來る人に頼みましたが誰も外套をくれる人がありません。もう日が暮れて人通りも少くなりました。そこへ一人の學生がマントを着て元氣よくやつて來ました。乞食は例の通り頼みますと、學生はつくづく乞食の姿を見て居たが、

『やあ、君は定めし寒いだらう。僕のマントを上げるから着て行き給へ』と云つて自分のマントを脱いで乞食にやりました。乞食は嬉しうに何度も御禮を云つてマントにくるまつたまへ何所かへ行つてしまひました。

その學生は速雄と云ふ名で大變利口な子供でし

た。速雄はよい事をしたと喜びながら家へ歸りました。翌朝目がさめて見ると、まあ驚くではありませんか。昨日乞食にやつたマントがちやんと疊んで枕元においてあります。

何時の間に置いて行つたのかとマントを手にするとパタリと一通の手紙が落ちました。すぐ開いて見ると次のやうに書いてありました。

『御親切な速雄君。昨日はマントを有難う。實は私は乞食ではありません。ほんとは魔法つかひなのです。この街では誰が一番親切か試めして見やうと思つて假に乞食に化けたのです。さうしたらあなたが一番親切な方だと云ふ事がわかりました。そこで私はこのマントに魔法をかけてお返し致します。このマントを着るとあなたの體が、他人の目からは見え無くなりますよ。けれどこのマントの不思議の力については決して誰にも話してはいけません。左様なら』

速雄はびつくりしました。とにかくためして見

やうと思つてマントを着て座敷へ行くとお父様もお母様も居らしやいました。けれど速雄が這入つて來たのはお存じ無いやうに『速雄かい』とも仰つしやいません。速雄は庭へ出ますと弟の次郎が遊んで居ました。『おい、次郎』と呼びますと、次郎はあたりをグル／＼見廻しながら『誰だいたたいを呼ぶのは?』と不思議さうな顔をします。速雄は面白くつて堪りません。何時かはこの不思議なマントが役に立つ時が來るだらうと思つてそつとしまつて置きました。

するとその國が隣の國と戦争をはじめました。速雄の國は小さな國だつたので段々に負けてしまつて、敵兵が今にもその街に攻め入りさうになりました。さあ街の人の心配と云つたらたとへやうがありません。遂に王様の御前で會議が開かれました。すると一人の大臣が進み出て『もし敵國の王様の首を取つたなら、きつと敵兵は元氣を失つて逃げるに相違無い』と申しました。そこで直ぐ

『誰でも敵の王様の首を持つて来た者には、勳章と御褒美とを出す國の爲に勇氣ある者は名乗り出よと云ふおふれが来ました。しかし誰もその冒険をやらうと云ふ者がありません。』

これを聞いた速雄は『よい時だ』と喜んで王様の御前にまかり出で、『私が敵の國王の首を取つて来ませう』と申しました。王様は速雄がまだ少年だったのでその言葉を信じませんでしたでしたが、熱心に云ひ張つたので『ではやつて見てくれ』と一振の刀をおさづけになりました。速雄は『きつと成功して歸ります』とお受けをしてその夜の中、誰も氣のつかぬ間に例のマントを身にまとひ、大膽にも敵の陣中へ忍び入りました。所々にかゝり火を焚いて敵兵が番をして居りましたが、不思議なマントを身にまとふ速雄の姿は誰の目にも止りません。やがて敵陣の奥深く立派な天幕をめぐらせた假小屋に近づきました。これこそ敵の王様の陣だらうとそつとうかゞつて見ると、中にはかゞり火

を明るく焚いて、立派な服を着た軍人達が卓子をとりにいて、今や勝軍のお祝ひ最中です。速雄はそつと忍び入つたが誰一人見咎める者はありません。暫く片隅に忍ぶ内、やがて宴會も終りになり軍人達はめいめいの陣所へ引上げて行きます。敵王はすつかりお酒に酔つて寢床の上へ横になるとグー／＼と高鼾で寝てしまひました『今こそ』と速雄は王様からさづかつた一刀を引き抜き、そつと敵王の枕元に近より『エイ』と一打に首を打ち落してしまひました。その首をつかむやいなや、一生懸命に敵陣をとび出して自分の街へ引き返し直ぐ王様に御目通りして、敵王の首を御目にかかけました。王様はじめ誰もかも速雄の勇氣に感じ何うしてこの大成功をしたかと尋ねましたが、例のマントの事を云ふのは魔法つかひに止められて居ますから話すわけにはゆきません。とにかく敵の王様を殺せば味方の勝利にきまつて居ますから軍人達も皆勇み立ち敵軍目がけて攻めかゝりました。敵

の方では王様が殺されたと知つて急に元氣が無くなりました。所へ速雄の國の軍勢が敵王の首を劍の先へつけて進んで來ましたので、すつかり勇氣を失ひ散々になつて逃げてしまひました。

速雄のお蔭で國が助かつたので速雄の評判は實に大した物です。王様からは勳章と御金を頂きました。街の人々は速雄さん〜とほめそやします。あんまり自分の評判がよいので流石利口の速雄も自慢せずにはゐられません。とう〜速雄は得意になつたあまり、悪い事を惡ひつきました。自分が不思議なマントを持つてる事を誰も氣がつかぬのを幸に毎日のやうにマントを着て街へ出ていたづらを初めました。道を行く人の頭をたゝいたり、鼻をつまんだり、お菓子屋の店からお菓子をぬすみ出したりいろ〜のいたづらをします。けれど例のマントを着て居る爲、誰の目にもつきません。誰も居ないのに鼻をつまゝれたり、お菓子が失くなつたりするので街の人はきつと惡魔の

仕業だと思つて居ました。

速雄のお父様はこの頃速雄が無暗に外へ出歩いたり。何うも様子が可笑しいので、不思議でなりません。或る時そつと速雄の室をのぞいて見ると速雄は戸棚からマントを出してそれを頭からスツポリ冠りました。これは不思議速雄の姿がバツと見え無くなりました。お父様は何もかも御察しになりました。それから尙よく注意すると不思議なマントの事も、この頃街に起るいたづらの主もすつかりわかりました。今まで利口だと思つて居た我子がそんな悪い事をするとは知つたお父様の悲しみは何んなでしたらう。しかし速雄のお父様は偉い方でしたから無暗に叱りません。速雄が自分でほんとに心から惡かつたと氣がつかせやうと思つて一つの方法を考へました、先づその不思議なマントとすつかり同じやうなマントをもう一つ作らせ速雄の知らぬ間にそつとすり代へて置きました。さうとは知らぬ速雄はいつものマントだと思

つてそれを着て街へ出かけました。さうして果物屋の店へ忍び入り林檎を一つつかんで出やうとしますと、不思議なマントと違つて外のマントですから堪りません。すぐ『泥棒』と云つてつかまつてしまひました。

街の人は皆驚きました。あの利口な勇氣のある速雄がそんな悪い事をしたのですもの、速雄はお父様がすり代へたとは知りませんから、自分のマントにはもう不思議な力が無くなつたのだと思ひました。さうして初めて悪かつたと氣がつかまつた。『ほんとに偉い勇敢な少年は自分の力と學問とにたよらねばならぬ。魔術のマントなどをたのみにしては何んなに成功をしても何にもならぬ』と氣がつかまつました。さうして自分が今までした事を皆に白状してお詫びしました。さうして前より一層よい少年になりました。

速雄のお父様は『魔術のマントもよい事につかへば役に立つが、悪い事につかへば却つて害をな

すから』と思つて誰にも云はず不思議のマントを焼いてしまひました。

このお話はこれでおしまひでございます。

○文部省保育講習會の

粘土製作實習

今夏開催の文部省の保育講習會は、いづれも適切なる學科を選ばれてあるが、就中海竹太郎、堀進二兩氏の粘土製作實習は最も注目すべきものである。粘土製作は從來も幼稚園に於て用ゐられて居たが、保育の新傾向向上後は特に注意を拂ふべき重要な問題となるべきものであつて、その實習を此の兩講師に依頼せられたことは、斯道の爲最も欣ぶべきことである。新海氏が帝室技藝委員として、文部美術審査委員として斯界の大家たることは言ふまでもない。堀氏亦斯界に於ける新進の大家として、文部省美術展覽會に於て常に其の偉大なる傑作を發表せられ、其の天才的手腕に於て人目を驚かされて居ることも、更めて言ふまでもないことである。兎に角く斯くの如き眞平の藝術家を煩はして、保育上の進歩改善に資し得ることは、我國幼稚園教育の爲に非常に賀すべきことであり、又特筆して誇りとすべきことである。(記者)